

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年12月17日
第49号

女子バスケットボール部

地区新人戦2位で全道へ

週末に開催された小樽地区新人戦で本校は小樽潮陵、小樽桜陽に勝利したが、岩内・倶知安高校合同チームに56-57で惜敗し、10年ぶりに2位となった。2月の全道大会(函館)には出場する。

部長の大竹聖奈さん(2-2)は「競った試合にはなったが、練習してきたことを出し切れず、「もっと頑張れたのでは」という気持ちが残っている」と言う。

シュート力の課題、ディフェンスのミスが続いたこと、人数不足で5対5の通常練習ができないが、もっと試合をイメージして練習したいと言う。



→試合前、心を一つに
表彰後、応援に来た3年生と↓



弓道

第3回高校・大学一般交流弓道大会 花立知世子さん女子個人優勝



12月13日、市内で右記大会が開催され、花立知世子さん(2-3)が女子個人で優勝した。
高校、大学、一般市民が約20名出場する中、4射2中で決勝戦に進んだのは8名だった。そこから射詰となり、花立さんだけが1本目を当て、優勝となった。
「一般の中には錬士五段など名だたる顔ぶれがいる中での優勝はすばらしいこと」と西川先生はおっしゃる。団体戦は男女混合3名ずつで競ったが、結果を出すことはできなかった。

小樽再発見②

戦時下「池袋モンパルナス」に生きる

小熊秀雄(4)前衛精神



十五年戦争(満州事変に始まる日本の対外戦争)下、東京の池袋とその周辺に一風変わった絵描きの集落があった。戦争勃発のころから賑わい始め、一時はむせ返らんばかりだったが敗戦とともに滅んだ。そこを「池袋モンパルナス」



双葉歴史探偵事務所 □13□

左から寺田政明(画家)、小熊秀雄



「池袋モンパルナス」と名づけたのは、この界隈に住んで多くの風刺詩をつくりつつ逝った小熊秀雄

であり、彼には次の一文がある。
「池袋から長崎町にかけては、芸術家と称される種族が住んでいる。それと並行的にダンサー、キネマ俳優など消費的な生活者に、無頼漢、カトリック僧侶など異色の人物を配し、サラリーマン、学生等が氾濫している、地方人の寄集りであるこの植民地東京のなかでも最も人種的に、従って東京人の精神的機構を語る材料がタップリある。なかでも神経質をもって売物とする芸術家の生活において、脳の働きと心臓のチツクタツクの状態が醸し出す不思議な雰囲気は恰もパリの芸術街モンパルナスを彷彿させるものがある。
(中略)

遠く池袋の空が夜の光を反映して美しく見える頃、画家たちはパチリパチリとアトリエの電灯を消して長崎町から、池袋へ出かけて行く。特別に用事があるわけではなく、ただ遠くの手が差し招くままに、足がふらふらと、その方向に向いて行くのである。
池袋モンパルナスに夜が来た
学生、無頼漢、芸術家が街に出る
彼女のために、神経を使え
あまり太くもなく、細くもない
ありあわせの神経を。」
(『サンデー毎日』一九三六・七)
(『小熊秀雄と池袋モンパルナス展』記念誌P17より)